

## 「渉外委員会の働きを覚えてください」

渉外委員長 富永憲司（柏木教会牧師）

「渉外委員会便り」は、日本キリスト教会の渉外委員会に託された務めと働きについてのご報告と、何よりも日本キリスト教会の内外諸教会とのお交わりの様子を知っていただくために年二回発行しているものです。

今号掲載文書は、主に二つの活動についてのご報告となります。一つは、日本キリスト教会が属している「世界改革教会共同体(WCRC)東北アジア部会(NEAAC)」が主催して行った第一回青年プログラムの報告です。渉外委員会からの要請に応じて出席して下さった山内美乃（やまのうち よしの:宝塚売布教会）さんの報告によって、東アジアのキリスト者青年たちの交わりの様子がお分かりいただけることと思います。

もう一つは、1984年以来行われている「改革教会と聖公会の国際対話」に関する最新の公的文書の翻訳（日本聖公会公式訳、2020年）です。世界改革教会共同体とアングリカン・コミュニオンは、2015年以降一つのテーマを巡って公式対話を続けていますが、その第5回会合が昨年9月に広島で開催されました。それを受けて、日本聖公会の西原廉太先生（世界教会協議会〔WCC〕中央委員、立教大学教授）による講演会が、昨年11月26日に日本キリスト教会と在日大韓基督教会の宣教協力委員会主催で開かれましたが、その際にも紹介されたこの文書は聖公会との今後の交流の方向と線を示唆するものとなっています。

さて、その他の委員会活動に関していくつかのご報告をいたします。

一つは、東北アジア部会(NEAAC)の件です。今年2月に予定されていた総会は、台湾政府の要請で中止となり、インターネットのスカイプ会議による拡大常任委員会が必要事項の確認のために行なわれました。延期となった総会は、今年の10月末から11月頭に予定されている第二回青年プログラムに繋がる形で、11月第一週に行われる予定です。ところで、今年の東北アジア部会は、議長を在日大韓基督教会から、書記・会計は日本キリスト教会から選出することとなっています。書記に渉外委員会の海外担当書記大石周平先生が、会計には青年の九嶋果林さん（札幌北一条教会）が就任する予定です。

二つ目は、国内諸教会との交わりに関するものです。まず、宣教協約を結ぶ在日大韓基督教会からの要請を受け、第3回目にあたる「和解と平和を求める韓日キリスト者の共同祈禱会」が行なわれます。当初は、3月初頭にソウルで行われる予定でしたが、新型コロナウイルス流行に伴い延期となりましたが、日韓関係の現状において両国のキリスト者たちが共に会して祈り合う重要性に鑑み、昨年同様、今年も両国交互で行われることでしょう。

日本キリスト改革派教会との協議会が、5月11日、柏木教会において、「大会会議と中会会議―理念と実際」と題して、双方からの発題を受け、協議を行います。

また、日本基督教団全国連合長老会との交流会が6月15日、柏木教会において開催されます。「教会の現状と課題、そして今後の展望」を主題として話し合います。

最後になりましたが、昨年の大会で議決された大韓イエス教長老会（合同）との宣教協約締結のために当委員会は大会常置委員会から付託された「協約案」作成のために努力していることを、みなさまにご報告いたします。

## 第1回 Youth Empowerment Program\* (ソウル) 報告文

山内美乃 (宝塚売布教会)

初めての経験で、始まる前はどのようなことかと大変不安でしたが、いざ行ってみると周りの方々も優しく、何もかもが新鮮で楽しかったです。私は日本での教会生活も中学生になってから教会に通い始めたため6年半ほどと短く、知識や経験もほとんどありませんが、このような機会をいただけて本当に良かったです。初日の開会礼拝から周りがほとんど知り合い同士の環境に一人ポンと放り込まれたような感じで、どのようなことかと思いましたが、アイスブレイキングの時間にたくさん話しかけていただいて、プレゼンテーションの準備まで一緒にさせていただいて、とても安心しました。

2日目のプレゼンテーション後、私が一番びっくりしたのは、海外では特に教会で政治や社会の問題についての話し合いが行なわれているということです。青年が密接に教会を



通して社会問題を考えているということにとっても驚きました。私はこれまであまりそういった問題について関心を持たず、日本キリスト教会が問題解決のために動いているという内容の報告を聞いても、そういう活動をしているのか、という程度でした。しかし、私が今回出会った方々は、自国の問題に日頃からしっかりと向き合った上で他国の問

題にも関心を持ち、解決に向けてどういうことができるか自分の意見を持っていらっしかったです。プレゼンテーションの後で、日本について私の意見を少し聞かれたのですがどの質問も自分の意見を持っていないゆえにあまりしっかり答えることができず、自分の無関心さを反省させられました。また、私自身は教会に通う中で同年代の友人とあまりしっかりとそういった問題について話し合うこと、特に自分の意見を持って発言することが全くなかったのが、PROK 代表の青年の方がこの問題について教会員の青年と話すときこういう意見が出たという風におっしゃっていたのがとても新鮮でした。

また韓国には本当にたくさん教会があり、教会の建物自体、礼拝自体の規模も大変大きかったことにも驚きました。日曜日の朝にソナム教会の礼拝に参加する機会がありました。中規模の教会だということでしたが、スクリーンを使った演出や本格的な聖歌隊の演奏などもあり、青年のみの礼拝ではバンド演奏も行なうということでした。もちろん教会員における青年の割合の差などは違いますが、韓国の教会の方が青年がもっと教会の事務的な仕事に関わっているように感じました。その一方で今韓国の教会の青年はたまにそのことを負担に感じている場合もあるそうです。仕事や勉学とただでさえ忙しい青年が休みの日曜まで教会関連の仕事に追われてしまうことがあり、それも若い教会員の教会離れに繋がっているのではないかとプレゼンテーションで発表がありました。

今回このプログラムに参加させていただき、東アジアだけでなく別プログラムで集まっている様々な国出身の青年と話す機会がありましたが、私が一番たくさん感じたことは、どうしても教会は閉鎖的な空間になりがちなのではないかということでした。何か一つのものを信じる人たちが集まるところは、どれだけリベラルだといっても少しは排他的にな

らざるを得ない空間になってしまうと思います。また特に日本では教会と関係があるということは珍しいため、異質に感じられることも少なくはありません。悪く言い換えれば、社会の方からも教会の方からも、お互いに離れあってしまうという状況になってしまうこともあり得るのではないのでしょうか。個人的な意見ですが、私は教会がもっと多くの人に開かれた場所であってほしいと思います。

日曜日に教会という建物に来るのは勇気がいることだということは、とてもよくわかります。ミッションスクールに通っていても、初めて教会に来た時はとても緊張していました。親戚にクリスチャンはいないので完全に教会と繋がりがなかったため、教会をどういうところか全く知らなかったからです。このプログラムに参加していた青年も、全員が両親もしくはどちらかの親がクリスチャンという家庭で育ったそうです。私が初めて全国青年のつどいに参加した際も、生まれた時から知っている、家族ぐるみの付き合いという同世代の友人がほとんどでした。韓国でも同じようなことが起こっており、そのせいでキリスト教人口が減り続けているということでした。教会員が昔からクリスチャンである親とその子供という構成であるため、新しい教会員があまり増えないそうです。

このプログラムでは、東アジアの教会の問題点をプレゼンテーションするという時間がありました。私たちはそれぞれ自分たちの教会や国が抱えている問題点をまとめ、プレゼンテーションを準備しました。もちろん問題点についてのプレゼンテーションなのですが、他の国の教会に関してのプレゼンテーションを聞いていると、その国の教会や社会問題の悪い面だけでなく良い点もたくさん見つかりました。わたしは日本キリスト教会の問題点として、教会の少子高齢化、牧師不足、教会が閉鎖的な空間になりがちであること、日本人全体の宗教への無関心（時に苦手意識や恐怖）、（従軍慰安婦問題と関連づけて）外国人労働者受け入れに関しての問題、などをプレゼンテーションしました。これらを踏まえて、プログラムの最後に参加者で、お互いと自分の教会のためだけでなく、ともに困難を克服しビジョンを共有し、明るい未来を創造していこう、との協同の祈りをささげました。

何よりこのプログラムでは、改めて私は一人ではないのだなと実感しました。普段、同年代の友人と教会で交流することがないため、孤独とまではいきませんが「ひとり」だと感じることも少なくはありません。しかし今回海外に出していただき、他国の青年と出会えたことで、同じ神様を信じる仲間が世界中にいるのだと再確認しました。

最後になりましたが、今回、未熟な私を選んでくださり代表としてこんなに貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。関わってくださった全ての方々に心から感謝します。

\*第1回 Youth Empowerment Program（＝青年たちを元気にするプログラム）とは、WCRC（World Communion of Reformed Churches＝世界改革教会共同体）の Northeast Asia Area Council（NEAAC＝東北アジア部会）が主催した4日間のプログラムで、昨年10月に韓国ソウルで開催されました。このプログラムは、各国から集まった若きリーダーたちにWCRCおよびNEAACを良く知ってもらい、お互いの隙間を埋め、より緊密に連携して諸問題に対処していける人材を育成することを目的としています。文中に掲載した写真は、同プログラムのウェブサイト掲載のものです。本年もほぼ同じ時期に第2回が開催される予定で準備が進められています。

ウェブサイトは [wcrc.ch/news/northeast-asian-youth-learn-from-each-other](http://wcrc.ch/news/northeast-asian-youth-learn-from-each-other) です。

## 改革教会-聖公会国際対話\*

(The International Reformed-Anglican Dialogue = IRAD)

### コミュニケ 2019

世界改革教会共同体\*\* (World Communion of Reformed Churches, WCRC) とアングリカン・コミュニオン (世界聖公会) 間における「改革教会-聖公会国際対話」(IRAD)は、2019年8月23日から30日に広島で5回目の会合を行った。この対話は、共同議長エリザベス・ウェルチ師 (WCRC) とハワード・グレゴリー大主教 (アングリカン・コミュニオン) のリーダーシップのもとに行われた。

この両教会間対話は、最初の世界大での対話が1984年から聖公会と改革教会の間で行なわれ、報告書「神の支配と我々の一致 (God's Reign and Our Unity)」に結実した。対話のテーマとして、コミュニオン (コイノニア) の本質と、そのような省察から両コミュニオンが直面する喫緊の課題についての研究が委託された。インド (2015)、イングランド (2016)、南アフリカ (2017)、カナダ (2018) での会議を経て、日本でのこの会議は、神の賜物であり召命であるコイノニアに焦点を当てた議論を結ぶものであった。

このテーマに取り組むことは、胸躍ることであると同時に困難を伴うものでもあった。この報告書では、聖書、神学、歴史におけるコイノニアの基盤と、それが教会論と宣教においてどのように表現されているかを論じている。我々は、コイノニアについての我々の理解がどのようなものか、そしてコイノニアは生活の中でどのように体現されるかを考察した。我々は、コイノニアが我々のコミュニオン内及びコミュニオン間の多様性に対処する上で、どのように役立つかを探求してきた。

広島で会合を行うにあたり、我々は被爆者の小倉桂子氏が1945年8月6日に体験した物語を分かちあってくださるのを聞き、また平和公園や広島平和記念資料館を訪れて、深く心動かされた。



対話は聖公会の聖餐式で始まり、改革派の聖餐式で閉じられた。対話の参加者は、朝夕の祈りを共にした。委員会は、広島復活教会の聖公会の聖餐式に参加し、大変温かい歓迎を受けた。

今回の対話はアングリカン・コミュニオンによって主催された。日本聖公会神戸教区のホスピタリティには大いに感謝するところであった。日本キリスト教会と在日大韓基督教会からの挨拶が届けられた。我々は、日本聖公会首座

主教ナタエル植松誠師、また神戸教区主教オーガスチン小林尚明師によって、大変親切に迎えられた。当委員会は、西原廉太師、市原信太郎師、浜井美喜氏による会議の準備と支援の労に対し、特記して感謝の意を表する。

\*11月26日(火)に行なわれた「改革教会—聖公会国際対話」広島会議報告・講演会の報告に代えてこのコミュニケを掲載しました。西原廉太先生のご厚意により、日本聖公会公式訳を転載させていただきました。出席者名は紙面の関係で省略しました (詳細は以下をご覧ください)。

<https://wcrc.ch/news/the-international-reformed-anglican-dialogue-meets-for-the-fifth-time-in-hiroshima>

\*\*聖公会公式訳では「改革教会世界共同体」ですが、日本キリスト教会での呼び名で表記しました。